



2023年6月6日
東日本旅客鉄道株式会社

在来線におけるレーダ雨量を活用した新たな運転規制の導入について

- JR東日本では、これまで降雨による災害から列車の安全を守るために沿線斜面などの防災対策と降雨時の列車抑止や徐行運転などの運転規制を行ってきました。
- 大雨および短時間強雨の頻度が増加している[※]なか、狭い範囲に短時間で強い雨が降る局地的大雨に対し、詳細に雨を把握し運転規制を行うことで、さらなる列車の安全性を向上させるため、従来の運転規制に追加して、レーダ雨量を活用した新たな運転規制（以下、レーダ雨量規制）を在来線全線区に導入します。

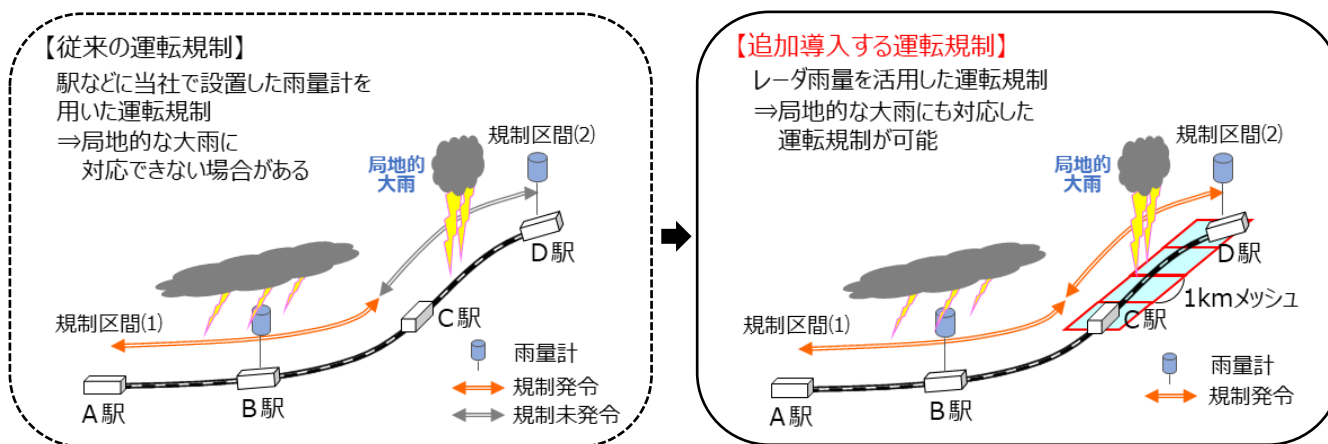
※文部科学省および気象庁「日本の気候変動 2020」より引用

1. レーダ雨量規制の概要

従来の運転規制では、駅などにJR東日本が設置した雨量計で雨量値を観測し、雨量値が規制基準値を超過した場合に、雨量計の受け持つ区間に対して運転規制を発令しています。

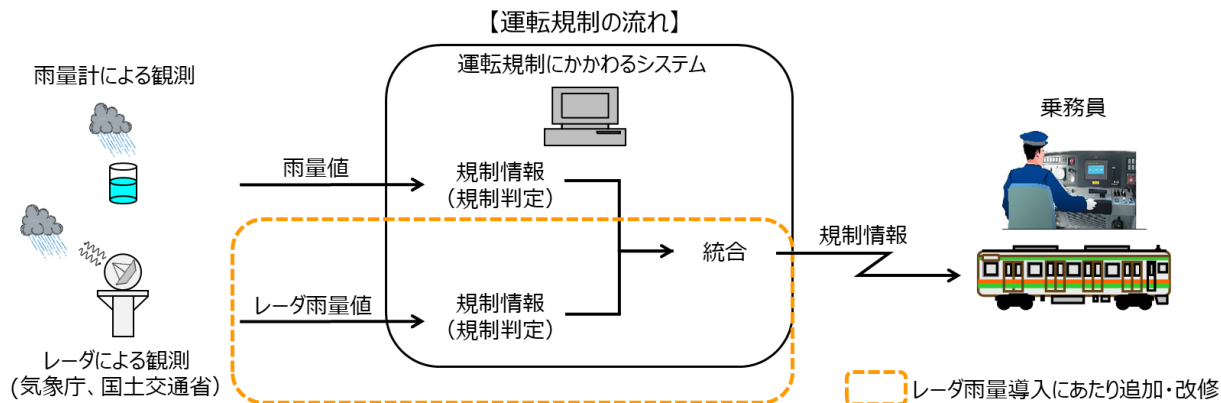
レーダ雨量規制では、気象庁や国土交通省が配信する1kmメッシュの面的雨量を活用します。レーダ雨量を活用することで雨量計が設置されていない箇所の降雨を把握することが可能となります。

線路沿線上の1kmメッシュのレーダ雨量が規制基準値を超過した場合に、そのメッシュが含まれる区間に対して運転規制が発令されます。



2. 運転規制にかかわるシステムの概要

従来の運転規制では、雨量計で観測した雨量値が規制基準値を超過すると、運転規制が発令され、運転規制にかかわるシステムからその情報が列車に伝達されます。レーダ雨量規制の追加導入にあたり、オペレーションを適切に行うために既存の運転規制にかかわるシステムを改修しました。従来の運転規制情報とレーダ雨量規制情報をシステムで統合して列車に伝えることで、速やかに運転規制が実施できるようにします。



3. 使用開始時期

2023年6月18日(予定)